

糟谷孝幸君虐殺に反撃の嵐を！

階級的的政治虐殺に怒り憎しみを！ 佐藤帝國主義政府実力打倒→訪米阻止へ！

糟谷君は権力への虐殺権を

行使したのだらう。暴力闘争への

佐藤帝國主義政府は、併呑者人民の力に、階級的的政治虐殺をもつて応じた。帝日主義者、独占金融資本は自らの凶年代へ向けを時勢的、経済的野望を遂行するたけ、その私兵二日隊、家内機動隊をもつて、人民の力に弾圧し、11月13日、我々がプロレタリア戦士、糟谷孝幸君（岡山大学文工）を抹殺したのだ。

11月13日、佐藤の訪米を阻止し、アジア人民への搾取と虐殺を在る基礎理論の帝日主義的退還し、アジア人民の確立を未然に阻止しようとする企圖に對して、我々の帝日主義者、学生、高校生は戦士糟谷君を先頭に、14日に至るまで、暴行の突破口を作った。

糟谷君を先頭とするプロ学同、帝日者反戦派の軍団は、日本とアジア人民の帝日主義者に対する怒りを一身に背負い、佐藤の私兵二機動隊の壁を打ち破って前進すべくその先頭に立った。

しかしながら、佐藤機動隊政府は狂気の大臣、治罪をしかけたのだ。アラキ機動隊員は、彼の数十名の殺し屋は、転じた糟谷君におそい、ハカリヘルメントをばざとり、頭部を彼の全身に数十本の警棒をふるい、軍靴でけり上げ、その上、燃えさかす火の中を逆ブリにひきずり回し、逮捕した。

さらに、護国軍中、警備隊取り調べ室で、懸りつたりリンチを続け、自白強要し、虐殺的行爲を「市民生活（資本家のための）を守る云々」と美化しようとしたのだ。

しかしながら、我々が若き戦士糟谷孝幸君は、自らの丁半の命を惜まず、痛みに三つえ、一黙秘しますと頑張りぬいた。ついに、責問不明に陥ったのだ。

しかも、警備隊は、数時間暴行した上、自民黨本部の御用病院に送りこいた。この病院でも、14日午前4時すぎに放置し、脳外科専門医の診察、治療をせぬまま、申し渡された病棟で、社会的体面を作り、遂に、14日午後10時、彼らは糟谷君を「虐殺」したのだ。

致し傷は警備隊による頭部への弾丸打撃であった。

糟谷君虐殺抗や、訪米実力阻止
全関西緊急行動に架起せよ
本目 20 中の島公園 地下鉄 池屋橋下車

佐藤訪米実力阻止へ、
11月13日、17日親衛隊再決戦に進軍せよ。
今さらのづく

共産主義労働者党、プロレタリア学生同盟

全この中仲者、人民諸君の。

もはや假りに一切の争解と居直りを許しては行かない。

佐野曰く主として政府の暴力の本質をあげてマスコミと結託した政治的後進人民に
対する居直り、偽善を絶対に許すな。

権力とマスコミは山崎君のときと同様に真相をひたすらけし、権力者を、をし
て多くの逮捕され、負傷した仲間も斗いに参加した仲間を暴徒に仕立て訪米を強
行しようとしている。

「是非はわかるが、手段方法には、いかに」といふ知りがあつた、をして自分
は何をしなげに他人のチカラ探しだけにするという卑怯な時として、権力の手
先とて多言動や行動は絶対チカラ人民のすることではない。

キリ権力者の死をかけた斗いに連帯せよ。

全この斗い、あらゆる政治的利用を退け、直ちに権力者と、21・11、13を斗
つた仲間者、学生、高教生の斗いに連帯し、今度は自ら先頭に立つことによつて
斗いの意味をよ。

全この中仲者、人民諸君の。

今こそ、佐野曰く主として政府の暴力の本質をあげて出し、一切の偽善に對する無厭
な期待、幻想をふり捨て、正に佐野曰く主として政府暴力打倒——訪米阻止の斗い
を組織せよ。

野田、菅野、前日主として政府の暴力を退け、直ちに権力者と、21・11、13を斗
つた訪米阻止のストに加入しよう。

我々の怒りを、本日の高教行動に結集せよ。

そして、首都へ日本人民の大進軍を。

共産主義青年團員自覚

「共産主義青年團員自覚」